

謹啓

初冬の候、御一統様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、今回善光寺季刊誌「成寿」第三九号をお届けいたします。

この号は、特に今年二月に行われた開山忌並びに二世中興大圓武志大和尚の頂相点眼法要のご報告や、曹洞宗専門僧堂のひとつである、山形県の善寶寺を特集致しました。

ご高覧頂ければ幸いです。

皆様様のご健勝をお祈り申し上げますと共に今後とも尚一層の御法愛、御教導賜りますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

謹白

平成二十年十二月吉日

横浜善光寺 住職 黒田博志 合掌

カ	ラ	―	■開山忌・二世中興大圓武志大和尚報恩供養……………	1
特	集	●開山忌・二世中興大圓武志大和尚報恩供養	ご挨拶……………	13
連	載	●『普勸坐禅儀』に学ぶ	その三……………	21
		●長野・善光寺へバスツアー……………		29
カ	ラ	―	■山形県鶴岡市 龍澤山善寶寺……………	33
読	物	●秋季彼岸法会……………		41
		●カリフォルニア大学バークレー校	日本研究センター五十周年記念大会に参加して……………	53
カ	ラ	―	■不動明王大祭 大圓武志大和尚の遺志を受け継いで……………	57
読	物	●おもいやりの心	―見ても聞いても読んでもわからない―……………	61
カ	ラ	―	■善光寺旅行会 ご報告……………	77
読	物	●善光寺旅行会	参加者の感想……………	81
		●善光寺霊園ニュース……………		87
		●坐禅会・写経会のお知らせ……………		92
		●ニュース・アラカルト……………		99

留学僧募集のお知らせ 96

読者のたより 105

編集後記 112

題字・イラスト 伊藤三喜庵

巻頭言

善光寺住職 黒田博志

師父亡き後四年目を迎えました。

「来者如歸」（来る者帰るが如し）前号に記した思いを省みてこの一年、檀信徒の皆様、寺にご参詣いただいた方に対して心より精一杯のお勤めができたのか、お参りいただいた甲斐があったのか、気持ち良くお過ごし頂けたのか、くり返し反省しております。

時の流れは早いものです。この一年も、春先には梅がほころび、椿そして桜が咲き、紫陽花へと順々、時期が来れば必ず咲き、見る人の心をなごませてくれる。

花を見るたびに師父を想い出す。私に師父の声が聞こえてきます。『博志、人間一日生きれば一日の足跡、一年生きれば一年の足跡、生き甲斐とは足跡を残すことだよ。人は人。自分は自分。肝心なのは自分、仏道に徹し、日常行持に捧げ尽せるかどうか博志自身のことだ。わが道を見て、人の道を見るな、これが修行の心得だ』、師父の「ことば」一つ一つが私に大いなる光を与えてくれます。さらにこの一年、師父の大きさを思い知らされました。それを仰ぎ見れば見るほどに高さを加え、これに従い及ぼうとしても、いまの私には及びようありません。

善光寺では毎年二月に開山忌を執り行っています。諸仏諸菩薩、親、祖先、恩人に感謝報恩の誠を捧げ尽す。これこそ師父の理念『宗祖を通して釈尊に還る』をあらためてこころ致すものであります。来春より師父への報恩行としても再開した『留学僧育英会』を同時に辞令交付の運びとなります。

今号は曹洞宗専門僧堂のひとつである、山形県の善寶寺を特集致しました。このお寺は大本山總持寺副貫主齋藤信義老師がご住職であり、師父も生前度々拝登

させていただきました。六月本山に拝問させて頂いた際に、老師には師父を遠く追いながら想い出話など篤く厚く頂戴いたしました。此処にもまた善光寺の足跡を観ることができました。

又、例年通り、今年一年の山内行事のご紹介もさせて頂きました。

今日の善光寺は檀信徒の皆様、関係のご寺院の皆様方、関係各位さまのおかげでございます。重ねて心より深く深く感謝申し上げます。

今後も師父の心を心として、若輩ではございますが、精一杯弁道精進致す決意でございます。